

平成21年度 富山市民感謝と誓いのつどい

とき：平成21年8月1日(土) 午後1時30分
ところ：富山国際会議場 メインホール
(大手町フォーラム)



中学生作文最優秀賞

「心の傷跡と祖父の願い」

富山市立新庄中学校三年生 大島 菜奈子

「ドゴーン、ドゴーン」
花火のようなけたたましい音。空は燃えるように赤かった。私の祖父が小学六年生の時、富山大空襲が起きた。祖父の父は徴兵され、家には母と祖母と兄弟七人がいた。八月一日の夜、空襲が始まった。祖父は八尾町の山の中に住んでいたが、爆弾が落ちる音は、耳に残るくらい大きかったらしい。恐怖にかられて電球のかさの上から布をかぶせ、外に光が漏れないようにしたそうだ。その周りに家族全員が集まり、息を殺して二晩中耐えたという。小学六年生にして祖父は死を覚悟した。「もし爆弾が落ちてきたらみんな一緒に死のう。」と思ったそうだ。

それを聞いた時、私は胸がつまって言葉にならなかつた。わずか十二才でこれほど恐ろしい思いをし、死まで覚悟した祖父。平和で安全な生活に慣れきった私は

大きな衝撃を受けた。祖父はこの話の後で私に言った。「戦争は、何の罪もない人々をたくさん殺したり、傷つけたりするんだよ。だからもう二度としないから。大切な体験をする人が出ないように戦争は絶対にしてはいけないよ。」
私たちは今、当たり前のように豊かに生活している。食べ物も、服もふんだんにあり毎日を快適に暮らしている。しかし、この何もない富山を築き上げてくださったのは先人たちだ。祖父が戦争直後に見た富山の中心部は一面の焼野原だったそうだ。そこから今日のような緑あふれる美しい富山の街にするのには、どれだけの苦労があったらうか。

富山大空襲を私たちは知らない。それは人の命を奪い、幸せな生活を壊し、街の思い出を消し去った。今、

は戦争の傷跡は感じられないが、私の祖父のように大空襲の恐ろしさを体験した先人たちの心には確実に残っているだろう。しかし、私たちはその先人たちが味わった苦難や心の傷跡を知ろうともせず、当たり前のようにこの街で暮らしている。今私たちにできることは何か。祖父の願いでもある戦争を二度と起こさないこと。そして、今の環境と命があることに感謝し、一日一日を大切に生きていくことだと思っ

私は富山の街を、お年寄りから子どもまで快適に毎日笑顔で暮らせるような街にしたい。
そのためには、先人たちが味わった苦難や体験を知って、一人一人がお互いを思いやり、助け合うことが必要だ。私は、先人たちが、祖父があの大空襲で負った心の傷を生忘れたい。そして、これからも富山大空襲のことをみんなに伝えていくことを誓う。

小学生絵画最優秀賞

3・4年生の部



「ライトレールに乗って未来の富山市ヘレツ・ゴー!!～海底富山市～」
富山市立桜谷小学校 3年2組 小辻 美都 さんの作品

5・6年生の部



「自然があふれ科学が発展する富山市」
富山市立五福小学校 6年1組 見角 魁星 さんの作品

富山市のあゆみ展

日時・場所
7月15日☑～7月24日☑
午前9時～午後10時(日曜日は午前9時から午後5時)
婦中ふれあい館

8月3日☑～8月10日☑
午前10時～午後9時
CIC
1F インフォメーション前広場
3F 市民交流館 フロア

内容
富山市の歴史、観光行事等の紹介や、市民生活の変遷を写真等のパネルで展示するほか、小学生が描く絵画「未来の富山市」も展示します。

主催／富山市民感謝と誓いのつどい実行委員会・富山市

富山市自治振興連絡協議会
富山市老人クラブ連合会
富山市女性団体等連絡協議会
富山市PTA連絡協議会

富山市社会福祉協議会
富山市民生委員児童委員協議会
富山市婦人会
富山市小学校長会

富山市遺族会
富山市児童クラブ連絡協議会
富山市母親クラブ連絡協議会
富山市中学校長会

「生命ありて、今思う」

富山県永楽町 山田 タミ

今年もまた八月がやってきました。私にとって忘れられない、そして忘れてはならないことがあります。

ここ何十年、夫や娘に話し、自分の思いを伝えてきました。しかし、私も当時十九歳、今長い人生の中で後どのくらい生きられるか不安な年齢となり、できる限り自分のせさやかな力で後に伝えたい。また、戦争を体験し空襲にもあい、「二度とこのようにならないよう、現在の平和な国を守っていただき」という念願があります。

昭和二十年八月日、あの日は、富山(市)越前町郵便局電信課に配属になり、十カ月目のことです。電信係として電報モジュール通信の送受信をしていました。三時出勤の十一時帰りという勤務をしていました。当時二十四時間勤務で女性の働く職場は数少なく、他に軍需工場、病院がそうであったと思います。まさかその夜、空襲にあつたとは思いません。それまでも何度か警報が入りましたが、その日も日の丸弁当を持って家を出ました。富山地方鉄道での通勤でした。十一時までの勤務時間を終え、電報の整理をしていた時です。警報線に「――：――」と音響がカタカタと鳴り、「スワッ、また空襲か」とみんな受信タイプライター席に着きました。富山の警報とどちらが早かったか定かではありません。

の周り(越前町)と次々に焼夷弾が落ち、ドーン、ドーン、と腹の底に響く音と、パチパチと燃える音、つかの間に炎の海となり、私はみんなと階下へ二階が電信課でしたあわてて下りました。が、主事さんが、「原書と電鍵を取って来い」といわれ、行囊を取りに上がり、引きずり下ろして来たときには、局内も焼夷弾が落ちて一部燃えはじめていました。私は、そこにたてかけておいた火たきで生懸命火を消そうとしたのですが、とんでもない追いつきません。そうこうするうちに、局長の土井梅吉さんがおいでになり、局の外の様子がかわかっておられたようで、「何をしよう、早く逃げなさい」との声で外へ出ようとしたのですが、外も局内も炎で、足がすくんでどこへ逃げてよいやらわからず、ただオロオロしていたと思います。でも私は、まず外へ出るにしてもこの炎では身体に火がつくと思ひ、防空頭巾に水をかけようとハケツ(木製で防火用水の水を汲もつたのですが、底が抜けて水を汲ることもできず困っていたところ、局長さんが、「今のうちに出来ないと死んでしまうぞ」といわれ、素早く私の手をつかんで外に出て一緒に走りまわりました。夢中でした。途中で、焼夷弾が足元に何度か落ち、そのたびに私は前に進むことができず、立ち止まると「早く」とせかされ、必死で走りまわりました。そのうちに、私のズツの片方が抜けてしまいました。履く暇がありません。そのまま護國神社まで走り続けました。石灯籠の下にかがんだのですが、そこにも弾が落ち、「ここも危ない」といわれ、神社の裏手の川かどぶかわかりませんが、とにかく水のある所に身をかくしました。ここまで空を見ることもできずに来ましたが、ホッとして見上げるとB29の音が余りにも大きく、バババと光るのでもまるB29

が赤トンボの様に見えるのと建物が燃え上がる炎とで、そのB29がとてきれいだろことがこの目に今でも焼きついています。近くで馬のいななくような声と、人々のさまざまなき声、倒れている人の姿などさながら地獄絵のようでした。少しづつ辺りが目につく明るさになり、付近の様子がかわかって来ました。そのとき、局長さんが、「家族が心配だから見に行く」といわれ、去って行かれました。磯部の桜の木は黒く、棒のように立っていて気がつくとう工手の上に、私は裸足で立って持っていた力いも防空頭巾もどつしたのがなく、胸から下はどぶの水につかっていたので泥だらけで、どぶの中にすべて置いて来たらしいのです。やはり我が家が心配になり、東の方を見ると越前町郵便局と大和、そしてどこかの土蔵と電話局だけが、黒い煙の中に建っていました。立つて歩く元気もなく、黒焦げの桜の木の下に何時間いたのでしょうか。ただ、熱いので歩くといくとも、市電の線路の両側は燃えていて歩けません。それでも少しづつ歩こうと思ひ、見ると馬が黒焦げになって立っていません。だれかが防火用水に水を飲むような格好で真黒になっている。あわれで悲しいといつより怖かったという方が多いでしょう。熱い中を通り抜けて、越前町郵便局までたどり着きました。何人か局の人がおられたように思います。見ると、電話局の方へ行くように、と書いてありましたが、私は家へ帰りたい一心で、田地方方面より電車線路に沿って家に帰ることにしました。線路道にはたくさんの方が無言で三〇〇口と歩いておられました。私もよつやく新庄の近くまで来て、辺りを見ると、新庄は燃えていなかったので安心しても嬉しく思ったものです。



水見市島尾海岸に漂着した富山空襲の犠牲者を供養するため、現地に建立された慰霊像

裸足だったので家へは裏から入りましたが、ちよつとその時母は、仏壇にお参りしている所でした。母は、「あの火の中ではお前が生きるとは思えなかつた」といひ、元気が帰れた喜びでお互いに抱き合つて泣きました。本当に嬉しかったです。私は一夜にして天国と地獄を体験したようです。二、三日後、焼け跡へ出かけたところ、その当時局の横に小さい川がありましたが、裏口のコンクリートの橋の下に同夜一緒に働いていた四人の友が手をうらないで亡くなっておられました。なんとも切なくなりました。合せて立ちつくしました。もし、私も局長さんが引張つて下さらなかつたら、一緒に手をつないで死んでいたに違いありません。生存されている間に、度深くお礼を申し上げ、今まで元気に生きてこられた事を報告したかたのですが……。いろいろなつてに問い合わせましたが、残念な事に昭和四十八年四月、東京で亡くなられたそうです。私は一生忘れることができません。これからも生命あることを感謝し、「一日一日大切に生きていくことが、せめてもの恩返し」と思っております。

式典

午後1時30分から



富山市長 森 雅志

1. 富山市の紹介映像

2. 「永久の火」入場 奉持者 富山市立大沢野中学校 3年生 5人

3. 国歌斉唱

4. 黙とう

5. あいさつ

6. 朗 読

「私の戦争体験記」から
「生命ありて、今思う」／山田 タミ
朗読／声のライブラリー友の会 村井 祐子

7. 代表献花及び一般献花

8. 「永久の火」昇天

9. 合 唱

- 1.手紙 ～拝啓 十五の君へ～
- 2.千の風になって
- 3.“富山に伝わる三つの民謡”から越中おわ ら”

富山市民大学合唱コース

指揮／瀬戸 和江
ピアノ／椎名 富美子